

災害時医療と救急医療におけるリスクマネジメントと対策  
～地震・津波災害、バイオテロおよびトリアージと救急搬送～

「司会のことば」

信川益明 杏林大学医学部 総合医療学教室 助教授

関東大震災から 81 年、阪神大震災からは来年 1 月で 10 年を迎えますが、今月 8 日に発生したパキスタン地震、8 月の大型ハリケーン「カトリーナ」、3 月の福岡県西方沖地震、昨年 12 月のスマトラ沖大地震・インド洋大津波、昨年 10 月の新潟中越地震、また 1995 年の地下鉄サリン事件、米国同時多発テロ、7 月のロンドン地下鉄同時爆破テロ、今月 1 日のバリ島テロなど、国内外で地震・津波災害・テロが発生しています。そこで、「災害時医療と救急医療におけるリスクマネジメントと対策」をテーマにして、地震・津波災害、バイオテロおよびトリアージと救急搬送について考えてみたいと思います。

シンポジストとして、まず救急医学・災害医学がご専門の福岡和白病院の村田厚夫先生には、生物兵器を用いたバイオテロリズムによる大規模感染および SARS などの新興感染症発生時の管理に関して、これらの対策と救急医療の視点から、サーベイランスシステム、救急医療機関・感染症専門医療機関の対応の流れ（危険の認識、危険度の評価・減少化、危機管理モニター等）などについてお話をいただく予定です。

次に、胸部外科学・救急医学・災害医学がご専門の小山記念宮中病院の森田裕先生には、医療危機（医療需要に対する質的・量的な医療供給能力の欠如もしくは絶対的な不足を指す）状態の概要と、それに対する危機医療において重要な要素であり、有効な手段であるトリアージ（選定）に関して、トリアージ・タッグを中心にお話をいただく予定です。

3 人目のシンポジストとして、救急医療・災害医療がご専門の弘前大学医学部救急・災害医学講座の浅利靖先生には、阪神大震災・パプアニューギニア国津波災害、トルコ国地震災害での外から入る救急医療の経験からの救援医療隊の実際と問題点、DMAT(Disaster Medical Assistant Team)、国際緊急援助隊、災害時医療コーディネーターなどについてお話をいただく予定です。

そして、救急医学がご専門でドクターヘリ研究の第一人者である川崎医療福祉大学の小濱啓次先生には、ドクターヘリの条件、目的、利点、試行的事業、正式運航からの経過と現況・効果、今後の展望などについてお話をいただく予定です。

最後に、東亜大学大学院総合学術研究科の三戸恵一郎先生には、海上医療設備（飛行艇：US-1A 改、病院船：輸送艦「おおすみ」等）の現状と今後の計画、医療機器搭載の問題点などに関してお話をいただく予定です。

多くの皆様に参加頂きまして、活発な討議をお願いいたします。